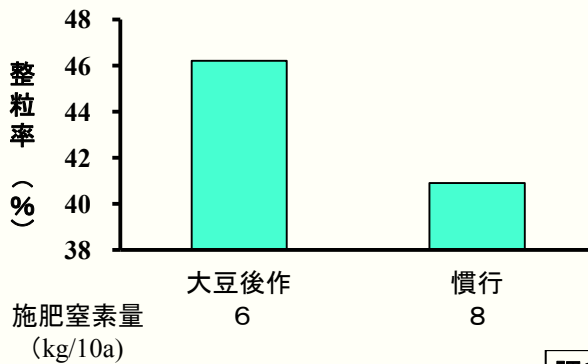


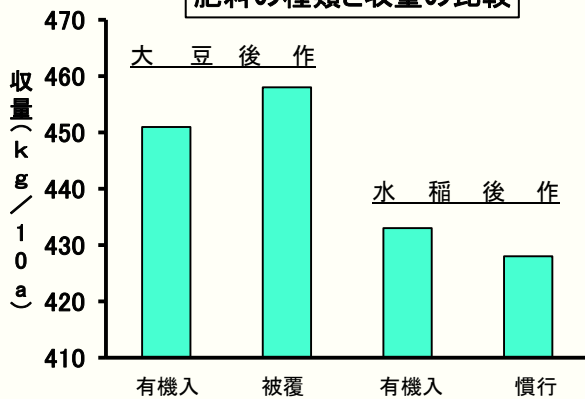
# 「ハツシモ岐阜SL」の「ぎふクリーン農業」に向けた栽培法

減農薬減化学肥料栽培である「ぎふクリーン農業」の推進に当たって、稲縞葉枯病への抵抗性を持つ品種「ハツシモ岐阜SL」は、減農薬が期待できる品種ですが、減化学肥料栽培法は確立されていませんでした。そこで、化学肥料の削減につながる緩効性肥料や有機質配合肥料を利用した減化学肥料栽培の条件について検討し、「ハツシモ岐阜SL」の「ぎふクリーン農業」に対応した栽培法を開発しました。

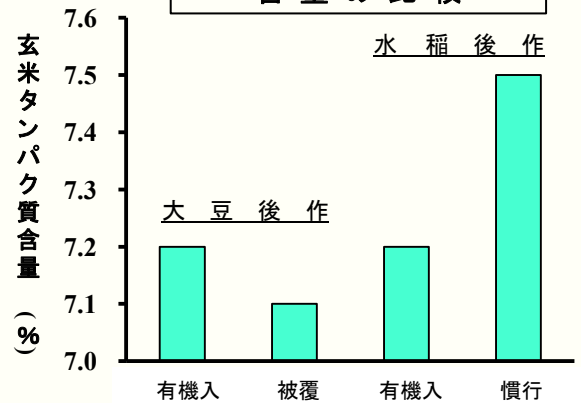
大豆後作栽培による玄米品質(整粒率)



肥料の種類と収量の比較



肥料の種類と玄米タンパク質含量の比較



有機入:有機入被覆尿素肥料 被覆:被覆尿素肥料 慣行:化学肥料  
 総窒素量基準 8kg/10a 大豆後作区は 6kg/10a

## (研究成果)

- 「ぎふクリーン農業」の化学肥料の使用水準(総窒素 6 kg/10a)では、収量や品質が低くなるため、有機質を含む被覆尿素肥料や大豆の後作での栽培により窒素分を補うことで収量や品質が確保できることが分かりました。
- 大豆の後作で栽培する場合、化学肥料の通常の施肥水準(総窒素 8 kg/10a)よりも少ない施肥量(総窒素 6 kg/10a)で品質が向上しました。
- 有機入被覆尿素複合肥料(有機率50% 総窒素 6 kg/10a)、大豆後作での有機入被覆尿素複合肥料、大豆後作での被覆尿素複合肥料(総窒素 6 kg/10a)の条件では、化学肥料のみの条件と比較して、収量は同等以上、食味を低下させるタンパク質含量は同等以下でした。